

令和4年度 朝霞市立朝霞第五小学校 学校評価書

○自己評価の評価基準 A: できている B: どちらかといえばできている C: どちらかといえばできていない D: できていない
 ○学校関係者評価の評価基準 ・自己評価と同じ評価の場合自己評価は妥当であると判断 ・自己評価と異なる評価の場合一学校関係者評価委員会としての見方を示す

	評価領域	評価の観点 ★校長自己評価シート項目から	自己評価	学校の観点 ○学校としての考え ◆課題・改善点	関係者 評価	学校関係者評価委員の 意見・提言
I 学校運営に関するもの	①学校の組織運営 危機管理 業務改善	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等 ・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用 ・情報規定と持ち出し規則 	A	<p>◇職員は、学校教育目標、学校経営方針を理解するとともに、「目指す教師像・児童像」の達成を意識して教育活動に当たった。</p> <p>◇学校は、会議時間の削減やペーパーレス化など、従前の働き方を改革する意識をもって業務にあたった。また、在校等時間を意識し、効率の良い働き方ができるように努めた。</p> <p>◇学校は、施設・設備の整備を適切に行うとともに、感染症対策を講じて安心・安全な教育活動を行った。</p> <p>◇学校は、個人情報の管理規定（持ち出し、取扱い）を定め、その管理を適切に行った。</p> <p>◆学校は、実践に基づいた振り返りをもとに校務分掌の配置を適切にし、より機能しやすく構成していく必要がある。</p> <p>◆学校は、引き続き国や県・市の推進する「働き方改革」について地域や保護者に理解を求め、教育の質を維持・向上させながら現状の働き方を改革していく必要がある。</p> <p>◆学校は、コロナ禍における様々な状況に柔軟に対応して教育活動を継続していけるよう、今後も策を考えていく必要がある。</p>	A	<p>○評価は適正・妥当であると判断します。</p> <p>○また、課題・改善点としてあげられている項目を実現していくことでより良い教職員の環境が整い、より良い教育、子ども達の成長を見守る教職員の皆様の職場環境の向上に繋がると感じます。</p> <p>○働き方改革であったり、ペーパーレス、簡素化といった効率を上げることで、今まで大切にできたモノが失われつつあるのも感じております。効率化と希薄化を理解していただきながら進めていっていただきたいと思います。</p> <p>○ペーパーレス化には迅速に取り組むことができている。コロナ禍で「今までと変える」ことが容易になってきている傾向があると思うので、先生方の負担軽減に繋がると良い。</p> <p>○日々学校の様子などHPで公開していることはとても助かっているため、今後も継続して行って欲しい。</p> <p>○校務分掌に関して、組織全体を機能させることは最優先です。それに加え細部関係者との対話や振り返りも継続頂き、来年度以降の組織運営に活かして頂くことを望みます。</p> <p>○個人情報の管理については、時々、個人情報紛失事故等のニュースがあるところです。これらの事故を他人事とせずに、朝霞五小において、ルールとおりの運用が実際になされているのかを含めてご報告いただくと、より良いかと思います。</p>
II 教育活動に関するもの	②基礎学力の定着 道徳教育 令和の日本型教育の実践 特別支援教育 研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 ・個別最適な学びの実践 ・指導方法の工夫と改善 ・評価、評定の工夫 ・タブレット端末の活用促進 ・道徳科と各教科との関連 ・道徳の実践力の育成 ・家庭、地域社会との連携 ・特別支援教育の理解と推進 ・通常の学級との交流 ・教員の資質向上 	A	<p>◇学校は、文科省の示す「令和の日本型学校教育」の理念のもと、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善（個別最適な学び、協働的な学びの一体的な充実）を行った。</p> <p>◇学校は、児童の態度に応じて、一人一人の基礎的・基本的な学力の伸びを意識した指導・支援を行った。</p> <p>◇学校は、タブレット端末やICT機器を活用した授業改善に、積極的に取り組んだ。</p> <p>◇学校は、道徳教育について、毎日の教育活動全体を通じて行った。また、「考え、議論する道徳」の実現に向けた授業を実践した。</p> <p>◇学校は、教員の資質向上のため、教員同士が切磋琢磨するミニ研修のほか、外部講師を招聘した校内研修を昨年度より多く実施した。</p> <p>◆学校は、特別支援教育への正しい理解と認識を深め、児童に適切な支援を行うよう努めたが、更に個々に応じた支援方法について研修を深めていく必要がある。</p> <p>◆学校は、個別最適な学び・協働的な学びの実践を引き続き積み重ね、研修を取り入れるなど教員の資質向上に努めていく必要がある。</p>	A	<p>○評価は適正・妥当であると判断します。</p> <p>○文科省や経産省が勧めるタブレット等を用いるICT化は、簡略化だけを目的にしたものではなく、子ども達の教となる資料の拡大や知識向上可能性を拡大するといった様々な可能性を向上させるものと認識しております。教職員の皆様も従来の授業の準備だけでなく、ICT化の充実に向けた研修等で多忙になると思いますが、そこは便利かつ簡素化に向けて、職場環境や働き方の充実を目指していただきたいと思います。</p> <p>○特別支援学級におけるタブレット端末の授業を参観した際に、書くことが苦手でも、画面タッチで学習も進むし、自ら取り組む姿勢も多く見られたので、さらに工夫した活用ができると良いと感じました。</p> <p>○課題・改善点あげていただいております、特別支援教育だけでなく、教育弱者に対する公教育の事はとても大切なことだと思います。教職員の皆様も大変だとは思いますが、職場全体でフォローしていただき、資質向上を目指していただきたいと思います。</p> <p>○教育環境についてはタブレットの導入等は評価しています。</p> <p>○「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善に関して、改善そのものを一律に行えるものではないが、先生方が児童の成長や変化をどう感じ、どう評価されたのか。成果や課題をより継続的に共有して頂きたい。また、保護者アンケート結果にもあるが、児童自らが学びを得る意欲や姿勢を生むためにも、学校の中で知り学んだことを家庭や生活の中で習慣化を促すなどご指導頂き、様々な状況はあるにせよ家庭（保護者）との連携を進めていって頂きたい。</p> <p>○タブレット端末の活用については、積極的に取り組んでいる様子がうかがわれ、とてもありがたく思っています。新型コロナ対策として有効なツールでしたが、新型コロナが落ち着いた後も継続して、むしろさらに積極的に、電子機器の活用方法を模索していただけることを希望します。</p>
II 教育活動に関するもの	③生徒指導 教育相談 規律ある態度	<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動、学級経営 ・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・教育相談、生徒理解 ・いじめ防止対策 ・個別の指導計画、支援計画 ・諸機関との連携 ・不登校対策委員会など 校内支援体制の整備 	A	<p>◇学校は、いじめ防止対策推進法に基づいて積極的にいじめを認知し、解消までの見届けを適切に行うなど、学校・学年全体で組織的に対応した。</p> <p>◇学校は、新規不登校児童を出さない取組を充実させたり、継続不登校児童への適切な支援を行ったりした。</p> <p>◇学校は、生徒指導や教育相談に関わる諸課題の解決にあたって、保護者や地域、関係諸機関との連携に努めた。</p> <p>◇学校は、児童に「生活のきまり」や「学習のルール」に則った規律ある態度を身に付けさせた。</p> <p>◆学校は、引き続き積極的にいじめの認知に努め、組織的（学年、生徒指導部、管理職などの系統）な生徒指導体制について見直していく必要がある。</p>	A	<p>○評価は適正・妥当であると判断します。</p> <p>○大きな事故に繋がらないことは少なくなってきたと感じますが、小さなトラブルは集団生活、学校生活を送る上で、仕方のないことだと思います。一義的な責任は、家庭環境にあり、多様性や様々な価値観を認める現代では、学校だけでは解決できないことが多々あると思います。PTAや地域と連携を深めて、子ども達の安心・安全を保って行ける環境になると思います。</p> <p>○コロナ禍での不登校の児童の増加は気になる。家庭はもちろんのこと、地域の協力も大切であると痛感します。</p> <p>○小学校の学習に困難を抱えると、そのまま中学校でも苦しくなり、不登校になってしまう傾向がある。小中の引き継ぎを丁寧に進めることが大切。</p> <p>○「生活のきまり」や「学習のルール」に則った規律ある態度に関して、家庭の教育がウェイトを占める部分であるので、様々な状況はあるにせよ家庭（保護者）との連携を進めていって頂きたい。</p> <p>○いじめや不登校の問題は、対応に長時間を割かなければならないなど大変さがあろうかと思いますが、一生懸命対応していただきありがとうございます。担当の教員だけの個人プレーではなく「組織的に」対応することが大切だという点はご指摘のとおりだとおもいますので、引き続きよろしくお願致します。</p>

	<p>④体力向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新体力テストの結果分析 ・体育好きな児童の育成 ・技能向上のための取組の工夫 	<p>B</p> <p>◇学校は、体育の授業や外遊びに、意欲的に取り組む児童を育成した。 ◆学校は、新体力テスト等で課題が明らかになった児童の体力（跳躍力、持久力、投力）を向上させるための具体的な取組を行っていく必要がある。 ◆学校は、日常の体育的活動がより円滑に進むように、分掌組織が機能するよう見直していく必要がある。</p>	<p>A</p> <p>○評価は適正・妥当であると判断します。 ○感染症での影響もあったかと思えます。 ○長年にわたり、五小では体力不足、運動能力不足が課題となっております。しかし教職員の方々の努力不足ではなく、地域性や現代社会の問題だと認識しております。 ○放課後や休日以外遊びをしなくなり、球技で遊べる環境がない中、様々な工夫をしていただいていると思えます。こちらも地域と連携を深めて、様々な取り組みをしていただけたら良いと感じます。 ○コロナ禍ですべての取組に制約がある中運動量を確保していく取組は高く評価できると思えます。 ○自己評価に関してはかねてからの課題でもあるので、より深刻に捉えるべきだと考えます。学校だけでなく自治体や国レベルでの対策や方向性を示すなど大きな課題意識を持ち、具体的な施策実行にもつなげて頂きたい。学校内でも成功事例や先進的な取り組みを研究し、試みながら進めて頂きたい。 ○五小ではかねてから懸念されている課題であるが、子供達の特性や地域性もあるのではないかと。全国や県の平均化をとって検討することを見直してもよいのではないかと。</p>
<p>III 地域連携</p>	<p>⑤地域とともにある学校づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校情報の発信（学校HP、各種たよりなど） ・学校公開・授業参観・個人面談の実施 ・充実した学校運営協議会の実施 ・地域、三中学校区間の連携 ・PTA、学校応援団活動の活性化 	<p>A</p> <p>◇学校は、地域や保護者への情報発信を積極的に行うなど、開かれた学校づくりに努めた。 ◇学校は、学校運営協議会の取組を学校教育活動に生かすとともに、PTA活動や地域の協力を得ながら、地域とともにある学校づくりに努めた。 ◇学校は、中学校区（三中・十小）で連携し、共に子供を育んだ。 ◆学校は、引き続き学校運営協議会での熟議を根幹とし、コミュニティスクールとして地域に根ざした教育活動を展開していく必要がある。</p>	<p>A</p> <p>○評価は適正・妥当であると判断します。 ○ホームページの充実やけやきメールの活用により、コロナ禍においても保護者の方々だけでなく、地域の皆様にも、情報が提供され開かれた学校の印象があります。 ○地域との連携については、学校だけの問題ではありませんが、町内会の希薄化や諸団体の乱立による職務分掌がすみ分けしづらく、各団体がうまく機能せず発揮できていないようにも思っています。 ○課題・改善点にも提案されている様にコミュニティスクールを活用していただき、地域の中心となる学校づくりをしていただけたらと思います。 ○校長先生が登校時に笑顔でご挨拶をしてくださっているのが、大変ありがたいです。</p>
<p>IV 特色ある取組</p>	<p>⑥特色ある教育活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の特色ある教育活動に関わる項目 ・昨年度の学校評価を踏まえた課題への解決 	<p>A</p> <p>◇学校は、情報モラル教育を積極的に行った。 ◇学校は、授業や諸活動で、学校図書館をこれまで以上に積極的に活用し、児童に豊かな情操を育もうと努めた。 ◇学校は、学校行事や学級経営、授業を充実させることにより、全教育活動とおして児童の自己肯定感・自己有用感の育成に努めた。 ◆学校は、課題となっていたあいさつについてアンケート調査等とおして実態を明らかにし、課題解決に努めたが、引き続き、教員が課題意識をもって率先垂範していく必要がある。 ◆学校は、無言清掃の指導に積極的に取り組んだが、更に徹底していく必要がある。 ◆学校は、人権に関する様々な諸問題（同和問題や北朝鮮による拉致問題、LGBTQ等）について教員が研修等によりその諸問題への正しい理解と認識を深め、児童の人権感覚を教育活動全体を通じて育成する必要がある。</p>	<p>A</p> <p>○評価は適正・妥当であると判断します。 ○とても活発で充実していると思います。 ○人として自己肯定感や自己有用感はとても大切だと思います。 ○他人を思いやり他人にやさしく出来る人づくりの根幹として、自己肯定感が最重要だと思えます。 ○課題・改善点に挙げられている無言清掃や様々な人権問題については、取り組んでいるではあると思いますが、若干、取り組んでいる姿勢や体制がPR出来ていないように感じます。取り組んでいく姿や体制を積極的にアピールしていければ、変わると思えます。 ○子どもたちが主体的に取り組む授業や思考力・判断力・表現力等をはくくめる授業が出来たら素晴らしいと思います。 ○人権教育など小学生にあった指導の難しさを感じます。授業時間の厳しい中、現在行われている講師や機関などとの連携以上に、道徳や人権に関して指導できる体制を学校内外の両面から構築していく必要があると考えます。 ○先生方がまず「人権教育」を学ぶことがとても大切。その上で、小学生という発達段階に合わせた人権教育を授けていくことが必要である。 ○保護者アンケートで「お子さんは、昨年より本を読んでいたか」という項目のAB回答が、もう少し上がると良いと思います。</p>